

14 貼付用局所麻酔剤の効果と問題点及び粘滑・表面麻酔剤の使用を試みて

厚生連篠ノ井総合病院 人工腎センター 北澤悦子、小林直子
伊藤希和子、松橋ひろ子
同 腎臓内科 田村克彦、長沢正樹

1-はじめに

透析患者において毎回の透析時の穿刺は、痛みを伴うばかりでなく透析に対する精神的苦痛も伴う。当センターでは、穿刺時の疼痛緩和目的で貼付用局所麻酔剤(ペンレス)を使用している。長期に使用している患者の中には、穿刺部周囲の皮膚のただれが見られる等、二次的感染の恐れもある。そこで今回、使用状況・効果・皮膚症状の出現、変化について検討した。

2-研究対象

当センターの血液透析患者213名中、貼付用局所麻酔剤を使用している患者31名、男性17名・女性14名を対象とした。平均年齢は60.9±9才。原疾患別内訳は、慢性糸球体腎炎20名、糖尿病腎症8名・囊胞腎1名・IgA腎症2名。(表1)

表1 対象

貼付用局所麻酔剤使用患者	31名
性別	男性 17名 女性 14名
平均年齢年齢	60.1±9才
原疾患	慢性糸球体腎炎 20名 糖尿病性腎症 8名 囊胞腎 1名 IgA腎症 2名

3-方法

透析における穿刺時の疼痛緩和目的にて、貼付用局所麻酔剤(ペンレス)を使用した患者に対し、効果・貼付時間・皮膚症状・知覚等に関し、受け持ち看護婦が観察及び聞き取り調査を行った。ペンレスの使用は穿刺予定部位に1ヶ所1枚とした。貼付時間は指定せず個々の状況に任せ、除去直後に穿刺を行った。(表2)

表2 方法

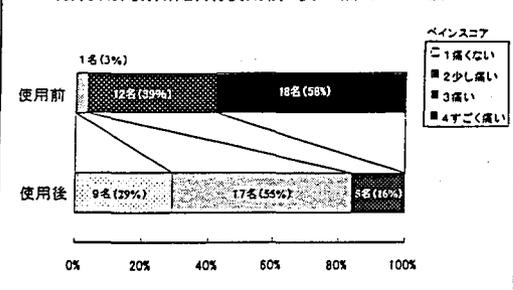
- ・貼付用局所麻酔剤の貼付時間と使用前後の痛みの変化について聞き取り調査を行った。
- ・貼付用局所麻酔剤を使用した皮膚の状態を観察。

4-結果

1) 痛みの比較

4段階のペインスコアを使用し評価した。痛い・すごく痛いと感じていた39名(97%)が、使用後は5名(16%)となった。(図1)

図1 貼付用局所麻酔剤使用前・後の痛みの比較



2) 貼付時間

60分以上貼っている人が28名、中には10時間以上貼っている人がいた。(図2)

3) 有効性

貼付する事により穿刺時の疼痛緩和には、有効13(42%) 著効6名(19%)と効果がみられた。(図3)

4) 皮膚症状及び自覚症状

貼付する事により皮膚症状としては、湿潤・かゆみ・発赤・色素沈着などが出現した。中には、ただれが悪化し潰瘍形成される症例もあった。(図4)

5) 粘滑・表面麻酔剤の効果

貼付用局所麻酔剤による副作用で、発赤ただれの出現した人と痛みは強いが貼付が面倒で中止した人に対し粘滑・表面麻酔剤を使用した。グラフト使用の患者の中には穿刺時の効果は薄い、透析中に残る血管の鈍痛は消失すると言う効果が見られた。(表3)

6) 価格の比較

2種類の表面麻酔剤の価格の比較を行った。透析回数を週3回とし、1ヶ月4週間の使用とし比較した。(表4)

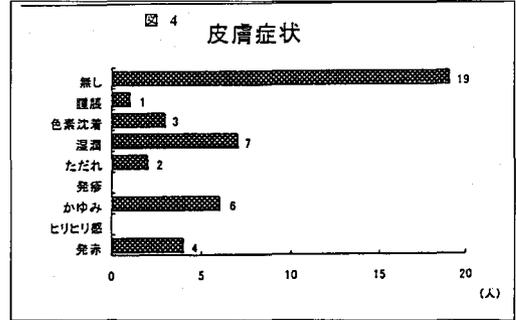
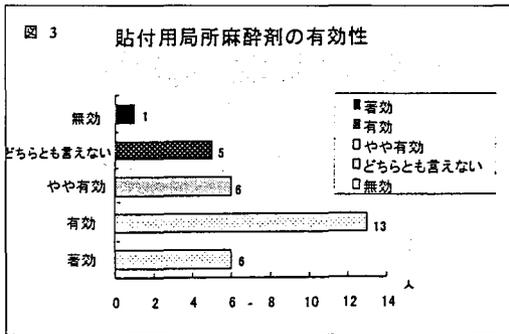
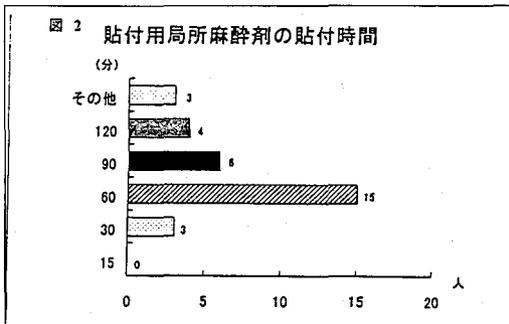


表3 粘滑・表面麻酔剤の効果

1. 皮膚のかゆみ、痛みが軽減。
2. かぶれ、ジクジクは無くなった。
3. 貼付型と比較すると著しい効果は見られなかった。
4. 透析中の血管痛に効果があった。

表4 価格の比較

貼付用局所麻酔剤

1枚 61.2円 1回に2枚使用
24枚/月 2937円

粘滑表面麻酔剤

1本 288円 1回に1ml使用
24ml/月 115円

5-考察

透析穿刺時に痛みを訴え、貼付用表面麻酔剤を使用している患者31名に対し効果と問題点の調査を行った。使用する事で19名(61%)に疼痛緩和に効果が見られた。

貼付時間では、文献上30分で効果があると言われているが、当センターでは60分以上の貼付時間において明らかな効果が認められた。皮膚症状は・発赤・掻痒・ただれ・皮膚の湿潤等が12名(39%)出現した。

使用者の日常の皮膚症状を見ると、乾燥肌よりシっとりした湿潤肌の人・テープにかぶれやすい人に症状が多く出現する傾向にあった。

貼付時間との関連性は見られなかった。又、年齢・男女別・原疾患との関連性も無かった。

掻痒による皮膚炎症状を起こし、ただれが悪化した人に対し、使用の中止・症状が治まるまで使用を控える様提案を行いました。痛みに対する不安及び麻酔薬に対する依存性が強く、数名を除き使用を続けた。長時間の貼付をしている人に対しては、時間の短縮を勧めた。

疼痛緩和目的で・冷却する・暖める等の対応も行って見ましたが期待した効果は得られませんでした。表面麻酔剤に対しての依存性が強いことから、粘滑・表面麻酔剤を使用しました。手軽に塗布することで効果が期待出来、色素沈着・ただれ・かゆみのひどい人・導入時の人に使用した。使用にあたっては看護婦が穿刺の20分前に針を刺す周囲に薬剤の塗布を行った。痛みの緩和には貼付用局所麻酔剤程の効果は無かったが自制可能な範囲になった。今回は症例が少ない為今後観察を続けたい。

現在の医療事情を考えると、低コストである事も今後使用して行く上で考慮して行く必要があると思われる。

参考文献

- 1) 古家智代子：透析導入者の穿刺時除痛効果の検討、日本透析医学会、O-530、1997
- 2) 黒滝和代：血液透析患者の穿刺痛血管痛の緩和を試みて、日本透析医学会、O-428、2000
- 3) 木下陽子：ペンレス貼用による皮膚色素沈着の実体と継続使用に関する患者の意識調査、日本透析医学会、P-1203、2000
- 4) 花岡一雄他：リドカインテープ（L-740）の手術予定患者における静脈留置針穿刺時痛に対する臨床的有用性の検討—後期第Ⅱ相臨床試験—一般臨床試験—基礎と臨床—Vol.26 No.9 .Aug. '92

まとめ

- ・穿刺部痛の緩和に貼付用局所麻酔剤は有効であった。
- ・貼付用局所麻酔剤使用患者の3割に皮膚症状が出現した。
- ・粘滑表面麻酔剤に替えたことで皮膚症状の改善が見られた。
- ・患者個々にあった薬剤を選択して行く必要があった。